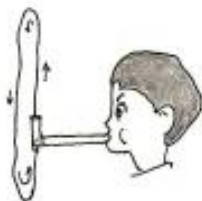


ストローでつくる糸吹上げ

青森・野呂茂樹

図のように太いストローを吹くと、細いストローから空気が吸い込まれ、それにつられて糸が回りだすおもちゃは、3・4歳の子どもでも遊べる昔おもちゃです。



安価で簡単につくれますが、つくるとききの注意点などを述べます。

【つくり・注意点など】

(ストローの接続)

① 太いストローとして6mmφのもの(中が透けて見えるものが仕組みを理解しやすい。7mmφがよりよい)、細いストローとして3~4cmに切った4mmφのものを使用しました。

② 先の尖ったハサミで、太いストローの蛇腹部分に細いストローは通る穴をあけます。細いストローが、ぎりぎり通る大きさにカットします(完全な円でなくても、角ばったりしていても大丈夫です)。



③ これまでのつくりでは、内部でストローが斜めになって空気の流れを塞いでいることがあります。これを防ぐため、まず、細いストローの側面上半分に幅5mmの両面テープ(1.5~2cm)を貼り付けたものを用意します。

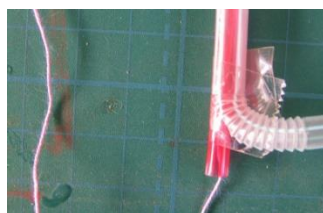


④ 細いストローの両面テープ側を太いス

トローの穴に差し込み、内面に付着させます(竹串などの細い棒で押し付けるといい)。



⑤ ストローが通っている穴の周りをセロファンテープで空気漏れがないように塞ぎます(ホットボンドが使えればよりよいです)。

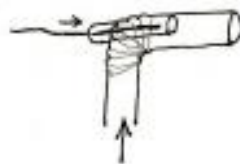


⑥ 太いストローの他端を吹いて、空気の流れを確認します。流れが悪いときは蛇腹部分を変形させて調節しましょう。

(糸を通す)

⑦ 細くて軽い糸 40~70cm。しつけ糸や極細毛糸。色違いを数本つなぐときれい。

⑧ 細いストロー側から糸を通します。数cm入れてから太いストローを吹くと、糸が飛び出します。



⑨ 両端をつないで輪にするとき、つなぎ目が大きいとうまく動きません。両端数mmに少量の木工ボンドをつけ、指で押付け、よじり、なめらかにつなぎます。

